

第 1 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時 平成12年12月20日(水)
2. 場 所 奈良県文化会館 集会室A・B
3. 出席者 委 員(敬称略) 池淵周一、澤井健二、木村 優、御勢久右衛門
近江昌司、荻野芳彦、北口照美、伊藤章子
奈良県 土木部次長(技術)、河川課長、 ほか
4. 議 事
 - (1) 大和川水系河川整備計画(生駒いかるが圏域)について
 - 1) 河川整備計画の位置づけ及び法定手続きについて説明
 - 2) 大和川水系河川整備計画(原案)(生駒いかるが圏域)について資料の説明

○各委員から次の事項に関して意見があった

 - ・計画案の全体的なトーンが治水が重視になっておる。環境分野の分量が少ないという感じがする。
 - ・河川整備の区間の抽出方法について説明がなくわかりづらかった。

→環境の整備については抽象的な記述しかできておらず委員会で意見を頂き、増やしていきたいと考えている。各河川の整備の区間の抽出は流下能力が不足している区間を抽出している。

 - ・地域住民との意見交換の場では川の多面性についても説明する必要があると思う。
 - ・水収支の概念図には定量性を記述しないと低水について把握ができないのではないか。
 - ・20年間の計画に対してどれだけの事業費を検討しているか知りたいところである。
 - ・計画規模の10分の1、50分の1という表現をもう少し市民感覚のレベルでわかる説明が必要と思う。
 - ・単に洪水を流すという話でなく、どこか水を貯めておく保水力をもった森があればいいと思う。普段の川の景観や川で遊ぶことを考えると水量がないと川でなくなる。
 - ・住民による河川の管理を促すには利用しやすいことが大事である。
 - ・大和川が汚れている理由には雨が少ないということがある。そのため、ダムなどにより、水を貯めるということは非常にいいと思う。
 - ・住民への説明のためには、親水性について「裸足で入れる」であったり、「魚釣りができる」といった説明がよいのではないか。
 - ・大和平野は雨が降ると水がつかるところがたくさんあったので、「ここは水がつくところ」といったものを発表すれば浸水被害がでても抵抗が少ないのではないか。

- ・河川環境の美化のためには住民の参加が不可欠であると思う。そのなかで子供たちに川に興味を持たせ、目を向けさせることが必要と思う。
- ・水害対策だけでなく、農村では常に水があるので、渇水期における対策も考えておくほうがよい。
- ・竜田・斑鳩地域は歴史的な地域である、ぜひ歴史的な環境、歴史的な景観ということを検討してもらいたい。
- ・奈良県の河川の特徴に直角に川と川が交わることもある。これは昔の条里制によるものと思われるが、河川工事の際川筋を変える場合は文化財保存課とよく協議したほうがよい。
- ・整備計画の具体的工事についてはどのように施工を進めるかというところも大事である。
- ・治水対策を検討する際、土地利用との調整は重要であり、河川管理者だけでなく他の関係機関との調整も重要であろう。
- ・河川環境について考えるとき、景観についても原案に記述が必要と思われる。
- ・河川の歴史的な問題、あるいは地勢の問題などを踏まえた整備計画にしていく必要がある。